

常陸大宮の絵はがき

郵便制度の開始により、明治6年（1873）に通常葉書、同33年（1900）に絵はがきの使用が認められると、名所や名品の写真や戦地の様子を写したニュース性の高いもの、デザインを凝らしたものなど様々な絵はがきが作られました。かつての常陸大宮市内の風景を用いたものも発見されています。文書館に所蔵されている常陸大宮市を写した絵はがきを紹介します。

◇小学校の落成を祝う

昭和8年（1933）10月、上野村の尋常高等小学校が新築移転し、これを記念して絵はがきが作られました。上野小学校は、明治7年（1874）に上岩瀬、下岩瀬、根本、泉、下村田の5か村が連合して上岩瀬富士山地区に小学校を設立したのが始まりで、明治13年に誕生寺境内に移転、さらに昭和8年に根本地内に移転しました。現在確認されているのは3枚組で（当初のセット枚数は不明）、校舎の全景写真、校舎玄関に4人の男性が写る写真、裁縫室の写真がモノクロで印刷されています。被写体の男性のうち、左端の帽子をかぶる男性は、昭和6年5月から4年間村長を務めた小野正雄です。稲田写真館が製作し、新築の記念に、関係者や地元の人々に配布されたものと考えられます。



▲上野尋常高等小学校新築記念絵はがき



▲「上野尋常高等小学校玄関」と題された絵はがき

◇「思い出の常陸大宮」

このタイトルが付けられたカラー写真の絵はがきは、昭和37年4月に竣工した農林省の放射線育種場（ガンマーフィールド）の設置を記念して作られたものです。放射線育種場（上村田）は国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構の運営する施設で、放射線による突然変異を利用した作物の品種改良を行っています。設置にあたっては地元からの反対もあり、その安全性や農産業への貢献を訴え、市民への理解を広めることが重要でした。絵はがきの封筒には施設見学ができることも案内されています。

現在確認されているのは7枚（当初のセット枚数不明）で、施設を紹介するものが3枚、残りの4枚は大宮町の風景を写したもので、「大宮の中心街」（現在の下町付近）、「甲神社の裸祭り」（正しくは素鷲神社の祭り）、「宇留野公園からの眺望」、「久慈川の鮎釣り」で、町章も印刷されています。

このような絵はがきが皆さんの家のどこかに眠っていませんか。情報をお待ちしています。



▲思い出の常陸大宮



▲「大宮の中心街」と題された絵はがき

謝辞 「上野村尋常高等小学校新築記念絵はがき」は秋山和隆様に、「思い出の常陸大宮」は小澤伸一様に寄贈をいただきました。御礼申し上げます。どちらも文書館で閲覧することができます。

【参考文献】『大宮町史』昭和33年、『水戸ノスタルジア』（図録）水戸市立博物館2013年、『絵葉書にみる土浦』（図録）土浦市立博物館2010年、絵葉書資料館HP